

平成24年度 事業報告書

公益財団法人 日本シルバーボランティアズ

1. 派遣事業（公1）

1) 一般地域への派遣事業概要

派遣国並びに派遣者総数は、ベトナム 19、タイ 6、スリランカ 3、フィリピン 3、ネパール 2、パラグアイ 2、マレーシア 1、インド 1 の 8か国、37名であった。

派遣国としては、昨年度(6か国)に加え新たにインドとマレーシアへの派遣が実現した。

派遣専門分野は、日本語教師が32名、障害児介護1名、派遣調査4名であった。

今後の課題としては、①限られた派遣費用の有効利用を図るための諸施策の検討、②会員の高齢化に対応して出来るだけ若い会員の獲得に努める、等に留意しつつ、引き続き日本との経済・文化面の関係が深い東南アジア諸国を中心に、当財団ボランティアへの期待に応えるべく、派遣を継続して行きたい。

2) 中国への派遣事業概要

事業年度中の昨秋に尖閣諸島問題に端を発する反日運動が発生し、中国側は招聘を一時的に中断、一方、日本側専門家も活動参加に消極的となり昨年度後半は件数が急減した。ただ、事業年度開始時点の春先から夏場までは派遣が順調に進んでいたため、平成24年度通期派遣数は例年とあまり変わらぬ61名となった。

年明け後、中国側カウンターパートの中国科学技術交流中心(CSTEC)は、斯様な時期こそシルバー専門家の受入を草の根外交として推進すべきとし招聘案件収集に再尽力している。この結果、平成25年度暦年分の招聘案件は根強い農業案件を中心にかなりの復活を見ている。

一方、当財団事務局として昨春から夏に向け主たる専門家を訪問、現活動に対する問題点・改善点を聴取した。これを中国側にフィードバックし専門家の活動環境改善と活動成果向上に努めている。

なお、中国政府は当財団のボランティア活動を高く評価し、毎年1～2名の専門家に対し同国「国家友誼賞」の授与があり、本年度も服飾関係の専門家が同賞を受賞した。

3) 国別派遣者数

東 アジア 61名 (中国61)

東南アジア 29名 (ベトナム19、 タイ6、 フィリピン3、 マレーシア1)

南西アジア 6名 (スリランカ3、ネパール2、インド1)

中南米 2名 (パラグアイ2)

合計 98名 (法人開設以来の派遣者数 4,497名)

(平成23年度 88名、平成22年度 84名、平成21年度 79名)

4) 費用負担別派遣者数

中国 61名 (70案件)

(中国科技交流中心扱い61)

法人の助成 33名 (霞会館19、尚友倶楽部14)

その他 4名 (自己資金4)

5) 部門・分野別派遣者数

農林水産部門 43名 果樹23、畑作7、畜産7、養蚕・キノコ2、花卉2、
食品加工2

工鉱業・技術部門 9名 自動車3、排水処理2、製紙2、溶接1、化学製品1

経済・経営部門 6名 生産管理4、観光2

社会教育文化部門 1名 介護1

日本語教育部門 32名 日本語教師32

調査・業務部門 7名 中国3、ベトナム1、スリランカ1、タイ1、インド1

合計 98名

2. 登録業務 (公1)

専門分野別

専門部門	人数 (内女性)		構成比率 %
農林・水産	79	1	23.2%
建築・土木	8	0	2.4%
鉱工業・技術	54	2	15.9%
経済・経営	19	1	5.6%
医療・保健・衛生	8	6	2.4%
社会・教育・文化	21	12	6.2%
日本語	151	73	44.4%
合計	340	95	100.0%

年齢別

年代別	人数 (内女性)		構成比率 %
80代以上	50	5	14.7
70代	130	24	38.2
60代	101	37	29.7
50代	32	9	9.4
40代	7	4	2.1
30代以下	20	16	5.9
合計	340	95	100.0

(平成23年度 360名 平成22年度 365名 平成21年度 346名)

3. 事業推進に係る内外諸機関・団体との協力、交流、情報交換等（公1）

- (1) 島村理事がアルファ国際学院梶浦学院長と共にタイ国立タマサート大学を訪問し、派遣日本語教師の活動を視察すると共に各種意見交換を行った（4月）。
- (2) 小高理事が中国科学技術交流中心（CSTEC）東京駐在所長 王志軍先生と共に国内有力専門家を訪問し、現状の問題点、今後改善すべき事柄などに関し意見聴取を行い、これを中国側にフィードバックした（7～9月）。
- (3) 駐日中国大使館の李纓公使参事官と派遣事業に関し意見交換・懇談を行った。同席には同大使館より各分野を担当する3名の書記官が参加、一方、当財団の有力専門家も同席し具体的事例を含め意見交換を行った（9月）。
- (4) 島村理事がベトナムさくら日本語学校を訪問し、派遣日本語教師の活動を視察すると共に各種意見交換を行った（11月）。
- (5) 神服理事、小高理事が中国に出張し今後の派遣事業に関し意見交換と事務打ち合わせを行った。中国科学技術交流中心は事務合理化のため、今後の案件収集・派遣手続き作業を全て電子化に移行するとして当財団に対し協力要請があった（12月）。
- (6) 島村理事がスリランカ・プリティプラ子供の家を訪問し、派遣日本人看護師の活動を視察すると共に現状並びに今後の課題につき意見交換を行った。
同じくスリランカにてケラニア大学を訪問し、派遣日本語教師の活動を視察すると共に各種意見交換を行った（12月）。
- (7) 引き続きインドにてバンガロール大学並びにサクラ日本語センターを訪問し、将来の日本語教師派遣につき意見交換を行った（12月）。

4. 助成金・賛助金・寄付金について（公1）

- (1) EU諸国の政治・財政の混乱や尖閣諸島問題等、厳しい国際政治・経済状況に拘わらず、関係諸団体・企業等のご理解を得て、相当額の助成金・寄付金・賛助金のご協力を得ることができた。また登録会員をはじめ個人の方々からも寄付金・賛助金を頂くことができた。
- (2) 長年にわたり実施しているスリランカの身体障害児施設「プリティプラ子供の家」での看護活動につき、玉川衛材(株)より消毒液、包帯、ガーゼ等の衛生材料の無償提供を受けた。

5. 広報事業（公1）

（1）若い世代に対する広報

岩手県滝沢村の滝沢南中学校より修学旅行における自主研修として、当財団のボランティア活動を取り上げたいとの要望があり、昨年4月19日、同校生徒6名（男女各3名）と学士会館にて懇談、説明を行い、深い関心を持って貰った。

（2）会報「JSV NEWS」（年2回発行）を日頃当財団を支援頂いている関係機関、団体、企業、会員その他個人の方々に広く配布し、公益財団法人としての新たな出発と活動内容の周知に努めた。

（3）各種派遣案件につきホームページに掲載し派遣希望者を募っている。

6. 総務事項

1) 公益財団法人への移行

平成24年4月1日をもって、新たに「公益財団法人 日本シルバーボランティアズ」として出発した。

2) 理事会・評議員会報告

（1）理事会について

①第1回理事会（平成24年5月14日）

1. 平成23年度事業報告書を承認可決した。
2. 平成23年度収支計算書、貸借対照表、正味財産増減計算書並びに財産目録を承認可決した。
3. 諸規程の改定・整備を承認可決した。
4. 平成24年度定時評議員会の招集を承認可決した。
5. 理事長の職務執行状況の報告がなされた。

②第2回理事会（平成25年2月14日）

1. 平成25年度事業計画書を承認可決した。
2. 平成25年度収支予算書を承認可決した。
3. 諸規程の改定・整備を承認可決した。
4. 平成24年度第2回評議員会の招集を承認可決した。
5. 理事長の職務執行状況報告がなされた。

(2) 評議員会について

①定時評議員会（平成24年5月24日）

1. 平成23年度事業報告書の報告がなされた。
2. 平成23年度収支計算書、貸借対照表、正味財産増減計算書並びに財産目録を承認可決した。
3. 理事長の職務執行状況報告がなされた。

②第2回評議員会（平成25年2月27日）

1. 平成25年度事業計画書を承認可決した。
2. 平成25年度収支予算書を承認可決した。
3. 平成25年度常勤理事の報酬額を承認可決した。
4. 理事長の職務執行状況報告がなされた。

3) 役職員の現況について

期末現在の評議員数	7名（非常勤）
理事数	5名（内常勤 4名）
事務局職員数	1名（参与・非常勤）

4) 決算の状況

当期は、87万円の正味財産経常減の予算に対し、150万円の正味財産経常減となった。

これは主として厳しい経済環境による寄付金等の収入未達、派遣先開拓の海外出張費等の支出増による。

以上